

混沌とした中から

2008年年頭に当たって

恒例となっている年頭に当たってです。このところ毎年この年頭に当たってがセキュリティについてを中心にその年がどうなるかを書いているようです。2004年にスタートしたこの「混沌とした中から」もこの年頭に当たってが4回目になります。コンピュータの世界は移り変わりが激しく、PCの寿命（簡単な判断材料として昔は5年であったリース期間が4年となり現在は3年になっていることから判断できます）もだんだん短くなってきています。以前はコンピュータの話題といえばCPUが新しくなった、マザーボードのクロックがどうのこうの、OSが新しくなったなどどちらかといえは一部のマニアックな話題が中心だったように思います（それは自身その中にどっぷりいたからですが）。今年日立が一般向けのPC開発から撤退しました。これで日本のメーカーで一般向けのPCを開発しているのはNEC、富士通、ソニーと東芝の4社（他にPC専門メーカーでいくつかありますが）になりました。日立もビジネス向けは続けるようですが、以前のような派手さは無いようです。現在はまだ各メーカーとも春モデル、冬モデルのように年に何回か新モデルの発表はありますが、それほど特徴のあるものは無い（このごろのモデルはすべての機能を含んだものが多い）ようです。このごろはあまり話題にもならないようで、電気店でもあまり宣伝のメインではなくなっています。大体、聖地のような秋葉原も様変わりし、マニアの聖地であることは変わりませんが、コンピュータ中心の大型専門店などが無くなり大型安売りの電気店が店を構えたりしているようです（実はこのごろいったことがないので）。

そういえば2008年ですが、今年も2007年のづきで大きな変化はないのでしょうか。PCは確かに大容量、高性能が今以上に進むものと考えられますが、ハードウェアとしてはインパクトが少ないものと思います。それよりもこれもしばらく前から言われていることですが「ユビキタス」がもっと実感として受け入れられるようになるのではないのでしょうか。いつでもどこでも必要なときに必要な情報にアクセスできるユビキタスですが、いつの間にか無線LANのスポット（ホットスポット）が身近になってきています。特に大都市圏は一般化し、これまでのように携帯電話で接続という必要がなくなってきました。大体スピードも料金も違いますが。また、バーチャルな世界（セカンドライフ）がいつの間にか現実の世界との垣根を越えようとしています。セカンドライフは元々アメリカの会社の始めた3Dのオンラインゲームです。これまでのゲームと異なるのはストーリーがあるわけではなく自分の分身をその世界に置きその中で生活させていくもので、旅行したり他のメンバーと会話をしたりものを売ったりすることができます。この中で使われる通貨が現実のものと同様に交換が可能になり、一般企業がスペースを確保したりすることによって注目されてきています。いつの間にか現実とは違うところに別の世界が作られてきています。実際にその中だけでコミュニケーションをとり生活のほとんどをセカンドライフ中心になっている人も出てくるものと考えられます。今はPC中心ですがPC以上に高機能化のスピードが速い携帯電話でセカンドライフが使えるようになると一気になるのではないのでしょうか。2008年はホットスポットと携帯電話のセカンドライフがどうなるかです。

あまりに早い変化。世界のバーチャル化の現実化。より一層混沌とした世界になるような気がします。

(今週の情報誌から)

○日経パソコン 12月24日号

特報 Excelでマッシュアップ

→インターネットの最新技術に「マッシュアップ」がある。インターネット上にある一定の手続きに従って特定の情報を取り出すWebAPIを利用するもので、どうやって使うかをExcelのマクロを参考に解説。

特報 セキュリティサイト活用術

→インターネット上には無料でセキュリティサービスを提供するサイトがある。ファイルのチェックをしたりWebサイトの危険度診断もできる。

○アスキーdotPC 2月号

特集 USBメモリが3つ星ツールに!

→USBメモリにソフトを入れたり、パソコン内部のデータと同期を取ったり、お気に入りの持ち出しもできる。また、OSを入れて別のパソコンにすることもできる。